

自昭和十九年十一月一日
至昭和十九年十一月三十日

陣中日誌

獨立混成第十五聯隊第二大隊本部

陣中日誌ノ例式

第一 陣中日誌ハ左ノ諸部團隊ニ基テ作ルヘキモノトス

大本營ノ各部(郵便部ヲ除ク)高等司令部(騎兵上各部ニ区分スルモノハ其各部毎ニ但郵便部ヲ除ク)兵站監部ノ各部、兵站司令部、聯隊、大隊、獨立中隊、砲兵聯隊、設列、堡壘團、獨立砲臺、電信隊、衛生隊、病院、獸列、監視隊、兵器廠、豫備員、豫備廠、志願隊、送部、馬廠

留守司令部及補充諸部隊ニ在テハ右ノ區分ニ應シ留守日誌ヲ作リ首トシテ第三項乙ニ掲クル項目ニ準シ記載スヘシ

第二 陣中日誌及留守日誌ハ諸隊團隊動員令受領ノ日ヨリ記載スヘキモノトス

特別部隊等ニ在テハ先ツ到着セシ將校又ハ同相當官之カ記載ヲ始メ後ニ之ヲ修正者ニ移スモノトス

第三 陣中日誌ハ左ノ事項ニ在リ

一ニハ戰史ノ用ニ資スル一ニハ各人ノ勤勞ヲ他日銓衡スルノ參
考ニ供ス

乙 編制教育、補充給養衛生武器彈藥、器具材料被服裝具
等凡テ軍事ニ關スル事物、經驗ヲ錄シ將來改良ノ材料ト爲ス

第四

甲ノ目的ヲ達センハ左ノ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

- 一、命令、訓令、通報(機密作戰目録ニ記載スルハ、單簡要領ノミヲ撰録シ其詳細ハ該作戰日誌ニ記スルコトヲ附記スヘシ)
- 二、毎日ノ位置(某地ヲ去テ某地ニ留ル等)
- 三、行軍、宿營ニ關スル事項
- 四、戰鬥ノ景況(戰鬥ノ類未ヲ記載スヘキモノニテ隣接部隊トノ關係緊要ノ時機ニ於ケル部隊位置、略圖ハ殊ニ明確ナラシムルヲ要ス)
- 五、戰鬥間ニ生シタル事件

以上ノ事ヲ記スルニ方リ時刻ヲ詳記スルコトヲ忘ル可ラス又以上ノ事ニ關シ自己ノ部隊ニ影響セシ事項(天候、地形ノ險易、道路ノ良否、人家ノ多小、守、類)ハ時間短ニ附記セサル可ラス

六、所屬セシ軍隊ノ區分(補給部、衛生部等)
七、人員ノ異動

轉任、死傷等將校官氏名ヲ錄シ下士兵卒及馬匹ハ共數ヲ錄ス
八、休戰中ノ宿營

九、野戰作業等ノ施設

十、其他所見ノ其一日間ニ生セシ緊要ノ事項

第五

乙ノ目的ヲ達センハ左ノ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

- 一、武器彈藥、器具、材料、被服、裝具等ニ關スルコト
- 二、編制及諸規令ノ作戰上ニ及ホシタル影響等
- 三、補充給養及衛生上ニ關スルコト
- 四、教育及軍紀ニ關スルコト
- 五、非常ノ時機ニ際シテ爲シタル非常ノ處置例ハ敵地ニ在テ住民ニ多額ノ罰金ヲ課シタル等

第六

高等司令部、諸部隊諸官將校ノ到達セル命令、訓令、通報及之

一 遺棄武器報告、詳報其他死傷表、武器彈藥損耗表或ハ前哨等ヨリ至レル報告等ハ凡テ其要領ヲ摘ミ、記事ノ後ニ低書シテ参照ニ備フハシ、但各原本ハ復願毎ニ一括シテ保存スヘシ

二 秘密ニ屬スル特別任務等ニシテ當時之ヲ日記ニ掲載スル能ハサルモノト雖モ其妨ナキニ至テハ成ルルハ詳細ニ其類末ヲ記載スルモノトス

第七 凡ソ此ノ日記ハ月日時(順序ヲ遂ヒ)ト地名トヲ明記セザル可ラス而シテ諸部團隊ノ長(或ハ參謀長)之ヲ點檢シ、毎日記載ノ結尾ニ捺印或ハ筆押スヘシ

第八 此日記ハ諸部團隊復員完結ノ日ヲ以テ終局ト爲シ、直ニ一本ヲ騰寫シ順序ヲ經テ陸軍省ニ原本ハ其部隊ニ格納スヘシ

陸軍省ハ此日記中ヨリ所要ノ事項ヲ抄録シテ之ヲ保存シ他ハ皆參謀本部ニ送り之ヲ陸軍文庫ニ格納スヘシ

第九 此例式ハ必ス陣中日誌ノ巻首ニ貼付スヘシ

井上

王月一日	大隊ハ依然今歸仁ニ位置シ現任務タル陣地構築ヲ主眼トシ、狀況ニ適應セシムルト共ニ戰法等ノ進歩ニ即應スル如ク作業並ニ工事ヲ續行ス
陣地構築	二、岩淵軍曹以下七名陣地構築作業ヲナス
	三、富田主計中尉外(右)聯隊本部ニ出張(ハハ日發)ハハ日歸隊ス
宿營地	沖繩縣國頭郡 今歸仁村 謝名
勤務	日直下士官 陸軍軍曹 仲條 嘉春
現員	人員 將校以下 二八名
	馬 匹 三頭
	軍犬 二頭
十月二日	
謝名	

井

陣地構築一 岩淵軍曹以下五名陣地構築作業ヲ實施ス

勤 勞 日直下士官 陸軍軍曹 岩淵亮一

現 員 人 員 將校以下二八名

馬 匹 三 頭

軍 犬 二 頭

十月三日
謝 名

一、〇八〇〇〇在記ニ依リ明治節式ヲ舉行ス

左 記

〇八〇〇〇整列

隊長臨場敬禮

遙 拜

訓 示

萬歳奉唱

敬 禮
解 散

大東亞戰爭勃發以來三年 御後成ノ下廣大ニ戰域ヲ確保
ニ愈々敵ヲ殲シ戰果ヲ加ハツアリ此ノ佳節ニ當リ熱鐵ノ一丸ト
ナリテ仇敵撃滅ノ決意更ニ新ニセリ

二、式終了後引續キ平常通り各隊共作業ヲ續行ス

三、大隊長一〇〇〇〇〇國民學校ノ明治節奉式ニ臨席ス

式終了後國民學校生徒ニ對シ大隊長現戰局ニ對スル銃

後ノットメニ講話ヲナス

訓 示 四、兵團長訓示別紙ノ如シ

下達命令 五、井上隊長命令 十月三日

井上隊長 陸軍中尉 関 太郎

右駐屯地會報出席ノ為明日復々地ニ出張ノ命ス

陸軍少尉 神谷秀雄

明四日B地... 陸軍軍曹

三... 陸軍軍曹 仲條嘉春

右入院患者護送ノ為一泊二日ノ豫定ヲ以テ名護町

疎第一八〇三部隊ニ出張ヲ命ス

日直下士官 陸軍軍曹 仲條嘉春

人員 將校以下 二八名

馬匹 三頭

單犬 二頭

現

務

訓示

今般本職軍司令部ニ招致セラレ軍司令官ヨリ左ノ要旨ノ申渡シアリ
隷下部隊ニ對スル監督不行爲ノ爲メ十月十日空襲ニ當リ越大ナル軍需品ヲ
燒失セル科ヨリ重謹慎七百ニ處ス

是レ統帥者トシテノ責任上當然ノ事ニテ誠ニ恐懼申譯ナク只管謹慎シ
テ將來ニ戒メ職責ノ完遂ヲ期セトス

此際所懷ニ開陳シテ特ニ各部隊長ニ望ム處左ノ如シ

一、旺盛ナル責任感ヲ要ス

凡ソ軍人ナル者ハ職アルヲ知リテ身アルヲ知ラス職責ノ存スル處は大權ヲ行使
スル所以ナルヲ肝銘シ至誠奉行以テ其司メ任サレシ重責ト御信賴トニ應ヘ

奉テラシコトヲ期セサルヘカラス

二、輔佐道ノ要諦ハ色ヲ空シ指揮官ノ心ヲ以テトシ一意専心粉骨碎身積極

以テ上官ノ命令意圖徹底具現ノ圖リ指揮官ニ對シ全責任ヲ負ヒキミナリ

兼務員各主任者於テハ深ク此意ヲ體シ一層覺醒セシメト望ム

三、軟弱統帥ヲ排シ部下ニ過信スルトナク進ニ目ノ人トナリ率先叱咤勵シ常

ニ慧眼ヲ以テ信者必罰ヲ行ヒ其部下ニ對シ苛酷ノ要求ヲ解スルト勿レ是レ

却テ部下ヲ愛スル所以ナリ紙價姑息的處置ハ吾人採ラサル所ナリ

四、掌権ニ確實ニシテ監督死角ヲ絶滅シ人ト雖モ隊長自ヨリ放シトナク不斷活

動ヲ督勵スヘシ

五、命令意圖ノ即時實行徹底ヲ圖ルシ命令意圖ヲ誠心誠意具現實行

スルコトハ各隊長以下上級指揮官ノ重要ナル武職タリ

尚古歌ニ

明日ありと思ふ心のまじし

夜半に嵐の吹かぬものかほ

武士ノ嗜トシテ味ヲヘキモノナリ

即チ長上ノ命令意圖理由ノ如何ヲ問フ即時即行ヲ圖リ遲延不覺ヲトカカキト

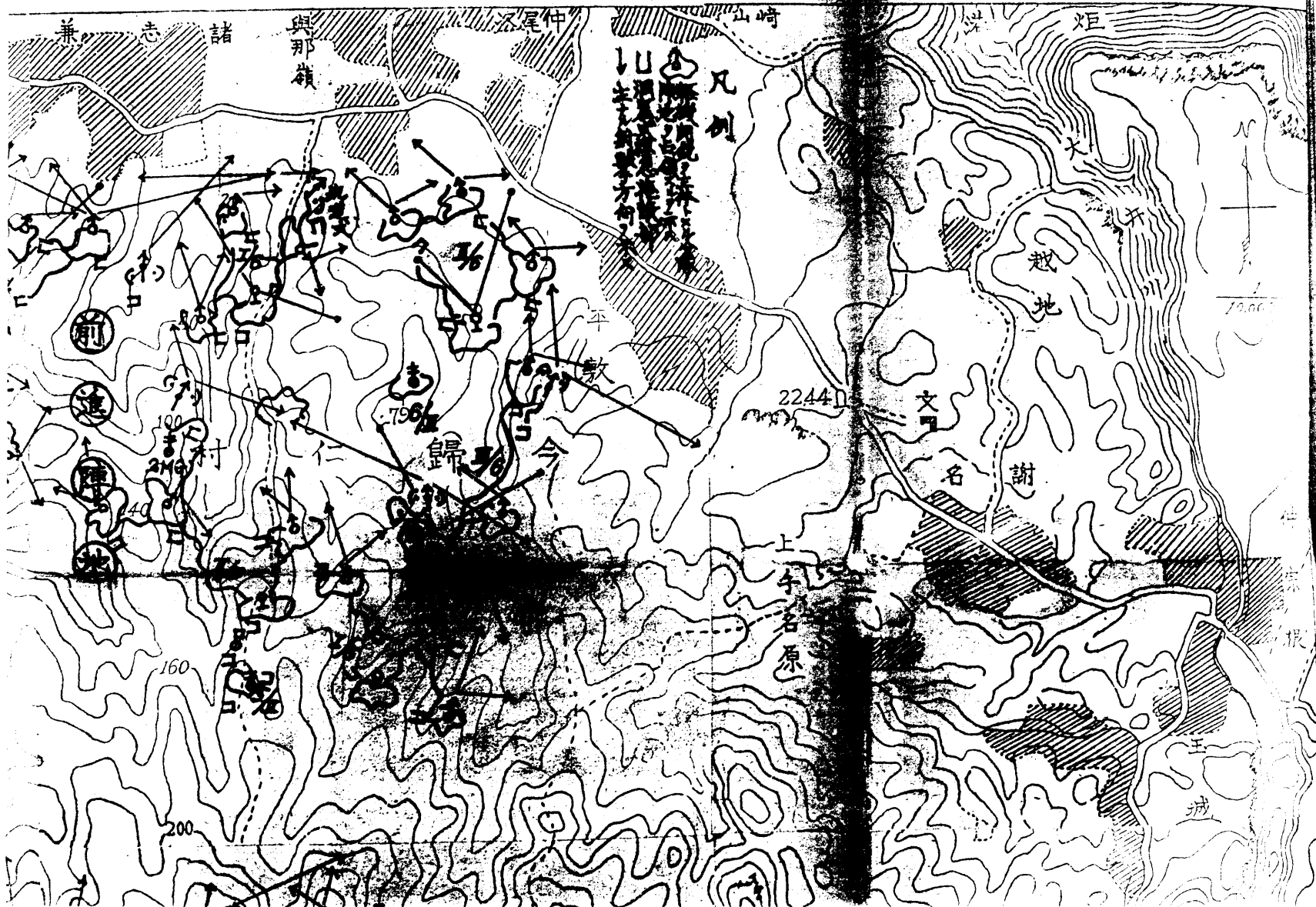
斷シテアルヘカラス

要スニ今回事ハ本職不慮致ス處我カ兵團名譽ヲ失墜セシトハ部下ニ對シテも誠ニ申譯ナシ
我カ兵團公ニヲ模倣トシテ一大刷新ヲ斷行戰備ノ途ニ猛進シ誓テ負托ノ重任ヲ完遂
センコトヲ期スヘシ

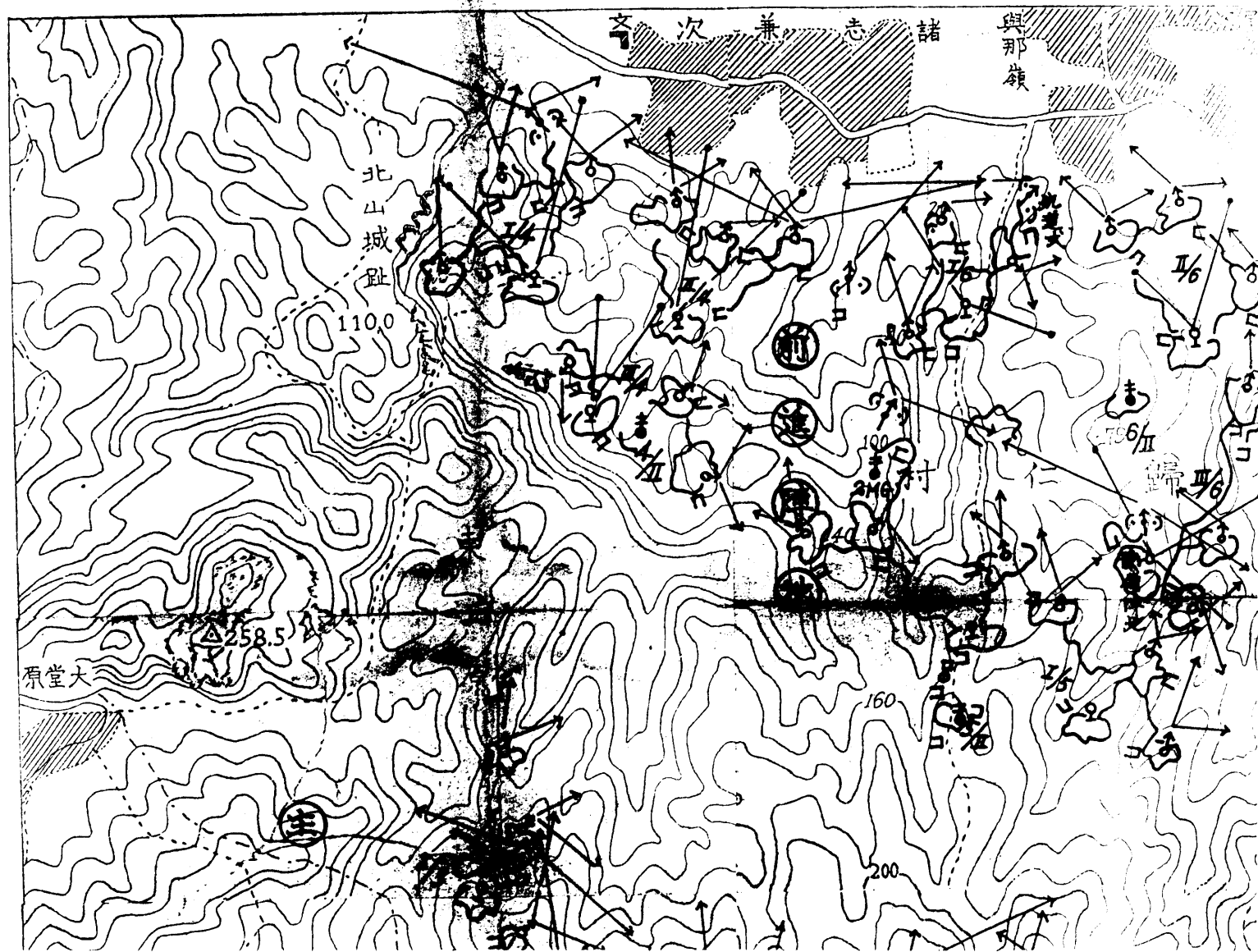
昭和十九年十月三日

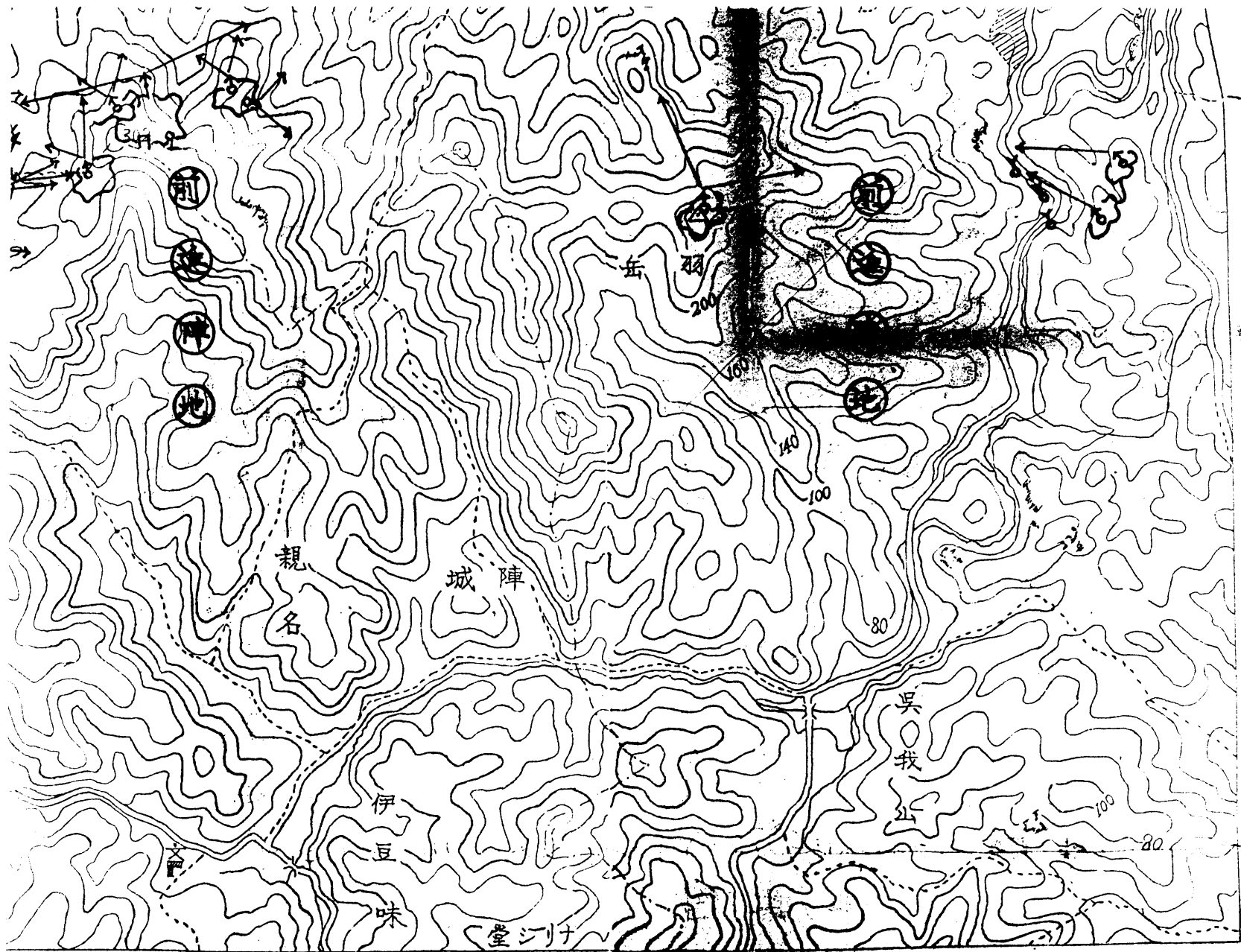
兵團長

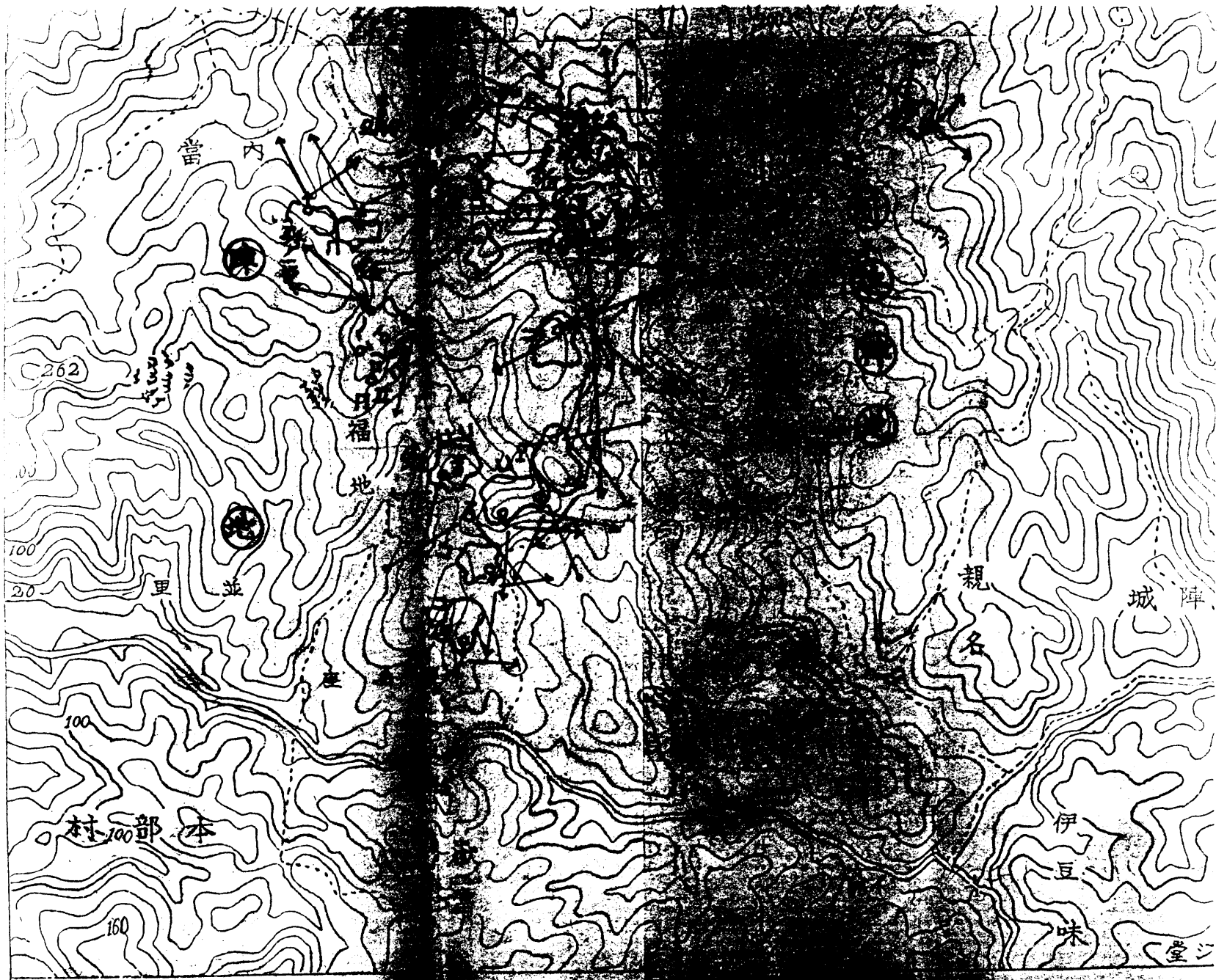
二 成 編 地 陣 隊 大 二 高



陣地縮成要圖







當内

262

福地

100

100

20

里並

100

本郷村

160

親名

陣城

伊豆

味

味

五月四日
新田
名

一、昨日、代日休暇實施、(地方協力者、協助、為)

二、横山衛生上軍兵、左記患者、護送、為、石、護町、出、張、又

第六中隊 陸軍軍曹 大原新一郎

三、岡中尉駐屯地會報出席、為、八日、發渡、久地、三、島、承、上、五、日

歸隊、又

勤務

B地區巡察官 陸軍少尉 神谷秀雄

日直下士官 陸軍軍曹 宮崎啓二

井上

現員

人員 將校以下二八名

馬 四 三頭

車 六 二頭

五月五日
新田
名

陸軍軍曹、代日休暇實施、(地方協力者、協助、為)

陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信
 陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信
 陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信
 陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信
 陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信



功 勞 員

- 三、球參電二二三號
- 南方軍總長(陸海共)ニ依レバ五日一六〇マニラ基點六
- 五度七三科ノ航空母艦一二隻戰艦一隻艦艇約四〇隻
- ノ敵機動部隊北ニ中ニシテ北進繼續スレバ六日朝晩沖
- 絶南方ニ〇科ニ達ス最要アリ
- 日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男
- 人 夏 將校以下二八名
- 馬 匹 五頭
- 車 火 一頭

陸軍少尉 田村忠藏

陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

陸軍少尉 田村忠藏
 陸軍衛生官 横山利治
 右事務連絡、爲明七日即日歸隊ノ豫定ヲ以テ渡又
 北部隊本部ニ出張命令ス
 日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

馬 三頭
二頭
軍

十月七日曇
附名

一、関中尉〇七〇〇〇一六〇迄本部陣地構築指導ニ任ス

二、副官一五〇〇〇〇一聯隊本部ニ於テ行ハル、事務打合せ出席シ

二二〇〇 歸隊ス

受 領 三、北地區隊命令 十月七日一〇〇〇
度久地

獨混一五作命 一、軍八地方住民軍隊ト混居ヲ嚴禁シ十一月十日迄ニ之ヲ清掃
第六六號

ヲ期ス

二、地區隊ハ軍ノ方針ニ基キ來ル十日迄ニ現ニ地ニ住民ト混居シ

アル部隊ヲ葉屋幕舎等ニ轉居セシメントス

三、本部各隊ハ現作業ヲ實施スル傍一部ノ兵カラ以テ陣地附
近ニ速ニ三角兵舎葉屋幕舎等ヲ構築シ十一月十日迄

二轉居スハシ

右ニ要スル材料ハ各隊毎ニ現地ニ於テ蒐集スルヲ本旨トスルモ一部ノ

材料ハ逆次次附ス

四、高嶺生計ハ三角兵舎葉屋幕舎等ヲ構築スル材料ヲ

蒐集次附スハシ

荷馬車一〇〇ヲ配屬ス

五、住居材料蒐集次附ノ為本部各隊ハ明日八日九日迄ニ是記

人員ヲ本部ニ差向シ抑込計大尉ノ指揮ヲ受ケテシムハシ

表左 記

本部(含大隊本部) 下士官各一

各中隊(含獨立中隊) 兵 各一

六、漫久池製材所ノ使用ニ關シテハ旅團工兵隊ト協定スハシ

七、工兵隊長ハ本部及各隊ノ兵舎構築ノ為一部ノ兵カラ以テ地

方六二ヲ指導セシムハシ

八十八本邦國民學校ニ在リ

北地區隊長 美田大佐

下達命令 四井上隊長命令

十月七日

井上命令書

陸軍中尉 山下寬治

右本旨事務連絡ノ爲即日歸隊ヲ以テ渡天地部隊本

部ニ出發ヲ命ス

勤勞

日直下士官 陸軍軍曹 藤井光男

現員

人員將校以下 二八名

馬 匹

三頭

軍 犬

二頭

十月八日書

北地隊

一、日七ヨリ大詔奉讀式ヲ敷定ニ於テ舉行ス

二、岩淵軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス

三、大隊長ヨリ三ヨリニ各中隊陣地構築指導ニ在ス

四、地方住民ト混住清掃ニ関シ左記ノ通リ指示ス

左記

一、地方住民ト混住清掃ニ関シ十月十日以降宿營ニ付左通心得ハシ

ノ今歸仁校ニ復歸

二、現地ニ於テ天幕露營ヲナス

右二項中何レカ決定シ九日會報時茲本部ニ報告コト

兵舎構築ニ陣地作業ノ関係ニ依リ十月十五日以降着手スルコトス

二、各隊ハ十月十日會報時茲ニ適地ヲ選定シ左記事ノ項報告コト

ノ棟敷・坪敷

二、所要床板敷

三、茅・繩・藁概量

兵舎一々小隊ニ棟以下トス

勤勞

日直下士官 陸軍軍曹 岩淵亮一

(手)

現員	人員 將校以下 二八名
	馬匹 三頭
	軍犬 二頭
謝名	五月九日晏
陣地構築	一、塩原軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス
教育	二、大隊長一〇〇ヨリ對戰車戰闘ノ教育法並ニ打合セラナス
	場所 今歸仁校舎
	時間 一〇〇〇—一四〇〇
	課目 對戰車肉攻
	被教育者 西村中尉、大門中尉、森岡中尉、関中尉
	川合少尉、今本少尉
	三、地方住民ト、混住狀況ニ関シ各隊指揮官狀況左ノ如シ
	第四中隊ハ現在兼次校ニ在リ

受領	四、北地區隊命令
獨混二五作命	一、軍八米軍ニ對スル戰技教育ヲ實施ス
第六七號	二、地區隊ハ右ノ普及教育ヲ實施シ以テ部隊戦力ノ充實ヲ期セントス
	三、小野寺中尉ハ別紙ニ基キ普及教育ヲ計畫實施スヘシ
	四、各大隊ハ小野寺中尉連絡ニ基キ所要ノ實兵及演習資材ヲ準備スヘシ
	北地區隊長 美田大佐
	獨混二五作命第六七號別紙抜萃
	一、專修員將校及勤務支障ナキ下士官全員
	二、實施日時及部隊

第五隊 (第一小隊陣地ニ於テ演習實施ス 第二小隊演習實施ス 第三小隊演習實施ス 第四小隊演習實施ス 第五小隊演習實施ス 第六小隊演習實施ス 第七小隊演習實施ス 第八小隊演習實施ス 第九小隊演習實施ス 第十小隊演習實施ス)

勤務員	現員	勤務員	現員
陸軍主計伍長 中田芳雄 日直下士官 陸軍主計伍長 中田芳雄 徹シ今歸校ニ復歸ス 二 第五中隊ノ指揮班及義井小隊ハ二四〇〇現着營地タル内當ヲ 一 仲條軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス	陸軍主計伍長 中田芳雄 日直下士官 陸軍主計伍長 中田芳雄 徹シ今歸校ニ復歸ス 二 第五中隊ノ指揮班及義井小隊ハ二四〇〇現着營地タル内當ヲ 一 仲條軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス	陸軍主計伍長 中田芳雄 日直下士官 陸軍主計伍長 中田芳雄 徹シ今歸校ニ復歸ス 二 第五中隊ノ指揮班及義井小隊ハ二四〇〇現着營地タル内當ヲ 一 仲條軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス	陸軍主計伍長 中田芳雄 日直下士官 陸軍主計伍長 中田芳雄 徹シ今歸校ニ復歸ス 二 第五中隊ノ指揮班及義井小隊ハ二四〇〇現着營地タル内當ヲ 一 仲條軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス
馬 匹 三頭 軍 犬 二頭	馬 匹 三頭 軍 犬 二頭	馬 匹 三頭 軍 犬 二頭	馬 匹 三頭 軍 犬 二頭

十月十日所風

陣地構築

勤務員

現員

十月十日 一三〇〇 伊江島地區隊
十月十日 一四〇〇 第一大隊及部隊本部
十月十日 一四〇〇 第二大隊
日直下士官 陸軍軍曹 宮崎 啓二
人員 將校以下 二八名
馬 匹 三頭
軍 犬 二頭

十月十日所風

勤務員	現員	勤務員	現員
陸軍主計伍長 中田芳雄 日直下士官 陸軍主計伍長 中田芳雄 徹シ今歸校ニ復歸ス 二 第五中隊ノ指揮班及義井小隊ハ二四〇〇現着營地タル内當ヲ 一 仲條軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス	陸軍主計伍長 中田芳雄 日直下士官 陸軍主計伍長 中田芳雄 徹シ今歸校ニ復歸ス 二 第五中隊ノ指揮班及義井小隊ハ二四〇〇現着營地タル内當ヲ 一 仲條軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス	陸軍主計伍長 中田芳雄 日直下士官 陸軍主計伍長 中田芳雄 徹シ今歸校ニ復歸ス 二 第五中隊ノ指揮班及義井小隊ハ二四〇〇現着營地タル内當ヲ 一 仲條軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス	陸軍主計伍長 中田芳雄 日直下士官 陸軍主計伍長 中田芳雄 徹シ今歸校ニ復歸ス 二 第五中隊ノ指揮班及義井小隊ハ二四〇〇現着營地タル内當ヲ 一 仲條軍曹以下五名陣地構築作業ヲナス
馬 匹 三頭 軍 犬 二頭	馬 匹 三頭 軍 犬 二頭	馬 匹 三頭 軍 犬 二頭	馬 匹 三頭 軍 犬 二頭

受領
獨死三五名
第六八夜

一 副官駐地地會報出席ノ爲メハ〇〇〇本部ニ出張ス
二 〇八三〇左記情報ヲ受メテ(添圖ヨリ)
〇七二五石垣島南方氣象ヲ報
七三〇松尾風下リ時速三〇并ニ北東進中次第ニ速度ヲ増シ今日
夕本島ヲ十時間ヲ北東ニ抜ケル見込ニ本島ハ勿論南面諸島一
帯ハ陸海共ニ嚴重ナル警戒ヲ要ス
三 一五五〇頃ヨリ次第ニ風力増大セリ
四 連日ノ雨風ニ依リ舍内外共相當ノ濕氣ヲ増ス
五 北地區隊命令
十月十日 一三〇〇
受領 久 地

下達命令六
第七四號

井上隊命令 十月十日

陸軍中尉 山下 寛治

一 右駐屯地會報出席ノ為本土日渡久地聯隊本部出張命令
二 西村隊 陸軍一等兵 新崎 義廣

右軍務修業兵トシテ名護町旅團司令部ニ分遣命令
仍本土十日一七〇迄ニ該部ニ到ルハシ

細部ニ関シテハ直接本人指示ス

七 夜間ニ入り風雨相當烈シテナリタルモ本部ニ被害ナシ

日直下士官 陸軍軍曹 仲條 嘉春

人員 將校以下 二八名

馬 四 三頭

軍 犬 二頭



現 勤 員 務

獨混二五旅命第六八號

北地區隊命令

二二二二一三四

一 旅團八別冊「球第一八〇」部隊防衛担任地域内ニ於ケル軍重要施設警防實施要領ヲ以テ秘匿地域警防ヲ強化ス

二 地區隊ハ右基ヲ担任秘匿地域ノ警防ヲ強化セントス

三 第一第二大隊ハ左記要領ニリ秘匿地域ノ警防ニ在ルハシ

一 左 記

一 秘匿地域ノ標示及警防區域ノ境界制札樹立時期列表第一ノ如シ

二 各大隊ハ十月十日以降担任區域内ニ毎日一回以上動員(下士官若クハ上等兵ヲ長トシ兵一名ヲ付ス)ヲ派遣シ居住許可證又ハ出入許可證ヲ携行セラルモノ

及警動不審者ノ取締ニ在ルニシム

巡察將校ニ対シテハ(一)週權ヲ二回ヲ基準トシ(二)時期及地區ヲ明示シ巡察

ニ任シムルモ其他場合ニ於テハ巡察區域内ノ警防ニ関シ萬遺憾ナク

期セシム

三、一般軍事援助者ハ各地ヲ編成シ指揮者ヲ付シ団体トシテ秘匿地帯
ニ侵入スルヲ指導ス

軍事援助者トシテ單獨行動ヲ許サズ

四、非違者ヲ認メ將ニ不審ノ懸テモ者ハ之ヲ部隊本部ニ連行スモトス

四、岡澤大尉及山下中尉ハ居住許可證ハ支許可證發行係關シ町役場ト協

議シ十一月十九日迄ニ之ヲ發行手續ヲ完了ス

五、出入禁止ノ爲メ制札ハ本部ニ於テ準備ス

之ヲ受領シ爲明十二日一三〇〇兩大隊ヨリ各々兵一名ヲ本部ニ差出ス

六、予ハ部隊本部ニ在リ

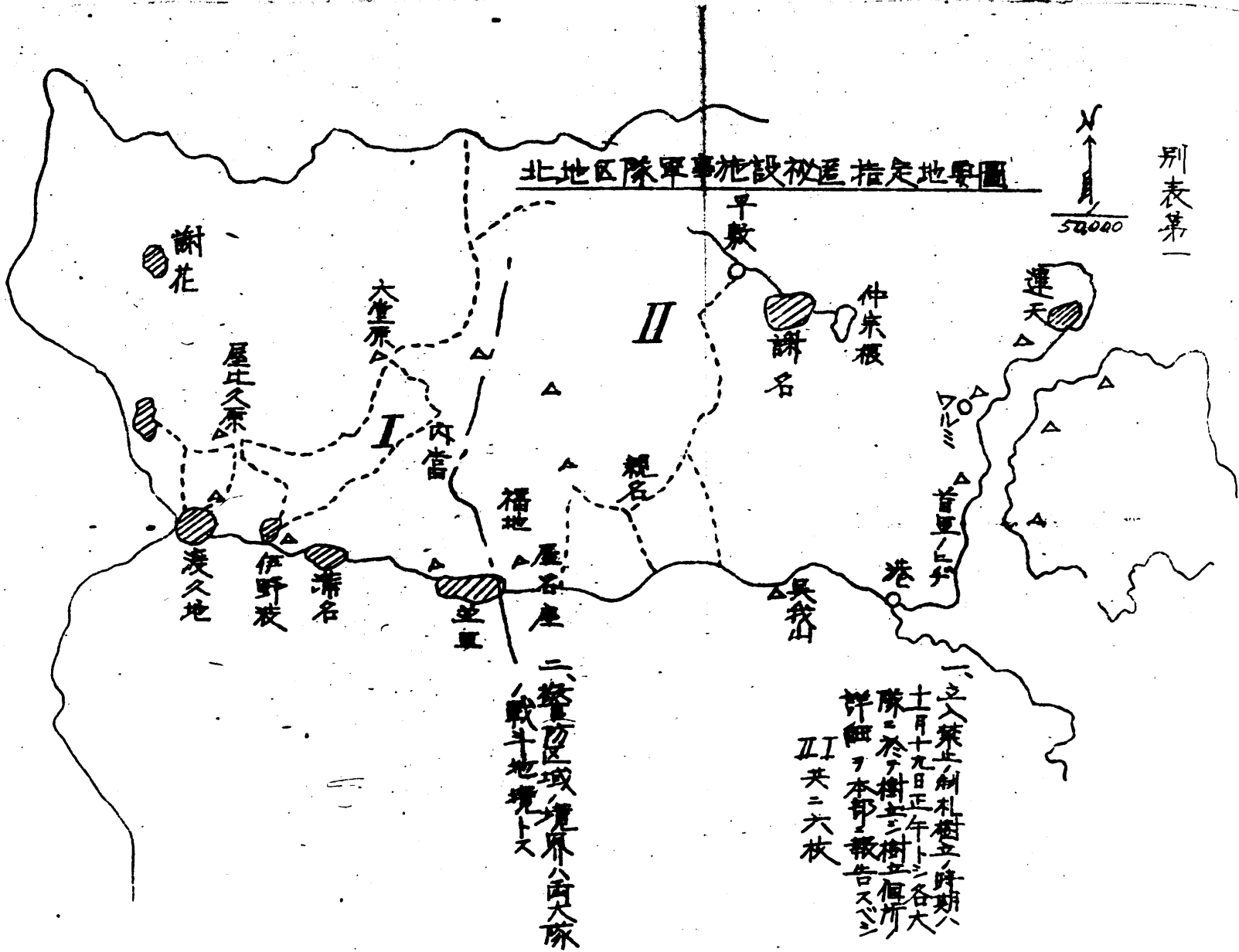
北地區隊長

美田大佐



北地区隊軍事施設秘匿指定地要圖

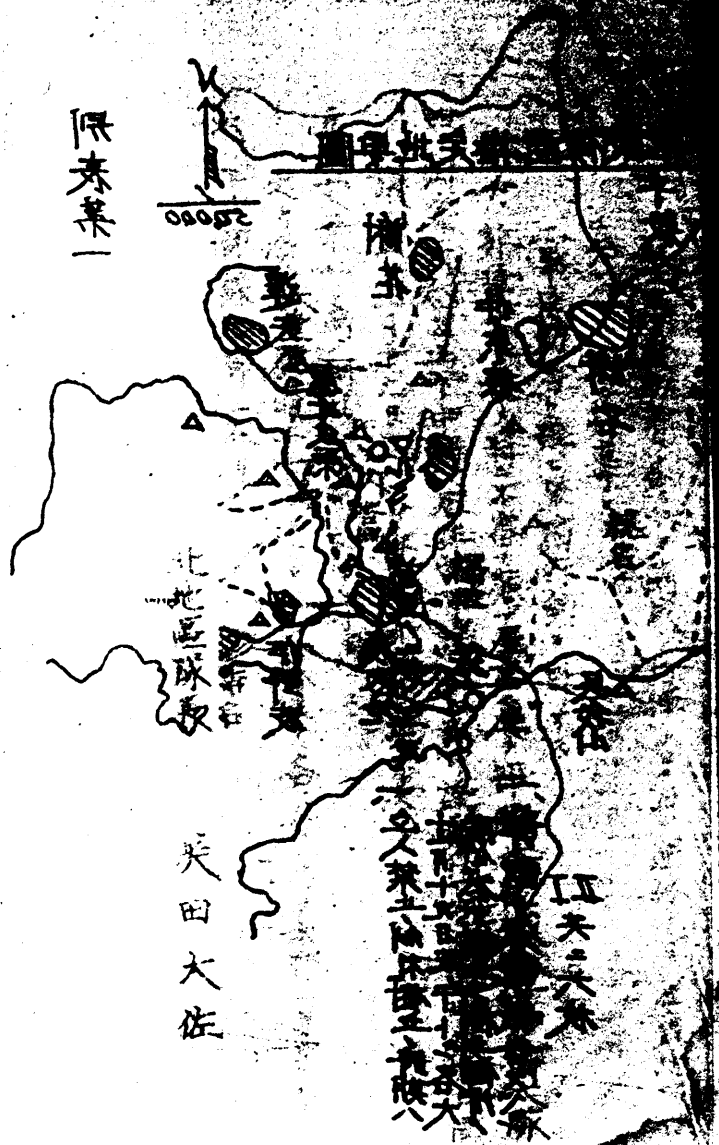
別表第一



一、北地区隊境界内各隊
 二、北地区隊境界外各隊
 三、北地区隊境界上

一、本禁止制札樹立時期ハ
 十月十九日正午トシ各隊
 隊ニ於テ樹立樹立個所
 詳細ヲ本部報告スベシ
 五、天ニ六枚

附錄一



附錄一 姓名	陣地構築	受領 獨花豆 第九三號	勤務員 井上	附錄一 姓名
一 關中村 伊條軍曹現ニ分散シテ各隊ニ配令ス	二 若洲軍曹以下七名陣地構築作業ヲ實施ス	三 午前中八幡宮ニ向テテ遺棄被褥ナシ	四 獨立混成第十五聯隊司令部 青土曹 一 免陸軍技術軍曹 長谷川信一 命陸軍技術伍長 前島 和雄	頭書ノ通リ第二大隊勤務ヲ免命ス 目直下士官 陸軍軍曹 藤井 光男 人員 將校以下 二八名 馬 匹 三頭 軍 犬 二頭

陣地構築

- 一 大隊長以下各隊陣地構築状況巡視ニシテ歸隊ス
- 二 岩別軍曹以下七名陣地構築作業ヲナス
- 三 獨逸軍曹第六公苑永ル立入禁止制札六枚ヲ池上迄ニ上等兵ニ渡シテシテ受領ス
- 四 八二番砲臺司令第九二號基ヲ前高伍長ニ大隊勤務ノ為聯隊本部ヨリ到着ス

下達命令五 井上隊長命令

十月十三日

- 一 陸軍少尉 川合次二

明十四日(日)地區巡察將校服務スヘシ

日直下士官 陸軍軍曹 宮崎啓二

現 員

人 員 將校以下二八名

馬 匹 三頭

軍 犬 二頭

陣地構築

田中伍長以下七名陣地構築作業ヲナス

一 三〇〇〇ノ獨逸一五作命 第六七號ニ基テ普及教育ヲ實施

ノ為小野舟中尉來隊ス

一 三二〇〇リハリナー(砲戰)訓ニシテ講話ヲナシ一四二〇〇リ實兵指揮ニ依ル射料(實兵第五中隊ヨリ)ヲ實施シ二六二〇終了ス

本教育ニ於ケル参加人員

將校一八名 下士官六五名

及 獨逸軍曹第十聯隊目命令

十月十四日

一 別紙計畫ニ基テ十月十六十七兩日地區隊對砲塔施設及砲

火集積状況ヲ巡視ス

下達命令四 井上隊長命令

十月十四日

一 岩別軍曹日直將校ニ服務スヘシ

(井上)

現勤員 秀

日服秀者	日服秀者	日服秀者	日服秀者
一六 義井少尉	二六 義井少尉	三六 義井少尉	四六 義井少尉
一七 吉川准尉	二七 吉川准尉	三七 吉川准尉	四七 吉川准尉
一八 中野中尉	二八 中野中尉	三八 中野中尉	四八 中野中尉
一九 保田曹長	二九 保田曹長	三九 保田曹長	四九 保田曹長
二〇 川合少尉	三〇 川合少尉	四〇 川合少尉	五〇 川合少尉

日直下士官 陸軍軍曹 仲條嘉春

人員 將校以下二八名

馬 匹 二頭

軍 火 二頭

井上 現勤員 秀

一 中尉以下七名 陣地構築作業 実施ス
二 前哨班長 各隊機三兵 指揮之 兵舎構築 所望 材料製成 了ス
三 各中隊隊長 率以 手勸 隊後 援助 一時 歸還 兵方 及び 作業 了行ス
四 三一九 左記 情報 受テ
五 十六日 六三三 九日 局内 號戰 備下 令 陸二六六 部隊長

陣地構築 現勤員 秀

(井上)

現勤員 秀

人員 將校以下二六名

馬 匹 二頭

軍 火 二頭

井上 現勤員 秀

一 中尉以下七名 陣地構築 作業 実施ス
二 前哨班長 各隊機三兵 指揮之 兵舎構築 所望 材料製成 了ス
三 各中隊隊長 率以 手勸 隊後 援助 一時 歸還 兵方 及び 作業 了行ス
四 三一九 左記 情報 受テ
五 十六日 六三三 九日 局内 號戰 備下 令 陸二六六 部隊長

下達命令 井日命 第七號	一、六三〇、三〇九〇、間丙號戰備下令 土月十六日 陸軍中尉 山下寛治	頭書ノ通任命令 陸軍衛生部 野澤 章 見習士官	右事務連絡ノ爲本十六日即日歸隊以テ各護町疎先 一八八〇三部隊ニ出張ヲ命ス	受領 三北地區隊命令 土月十六日三〇 渡久地	別紙	勤務員 日直下士官 陸軍軍曹 官崎 啓二 馬 匹 三頭 單 火 二頭	現員
--------------------	--	-------------------------------	---	---------------------------------	----	---	----

考 備	一、十六日晝食ハ第一大隊ニ於テ準備スルモトス	對砲爆施設及物資集積状況巡視計画 人員及彈藥糧秣等砲爆ニ對スル掩護ノ施設・点檢指導シタカ 水損害ノ絶無ヲ期ス	時刻	巡視	實施	要領
	二、十七日晝食ハ拂行トス		二、第二日巡視部隊	三、服裝ハ略装トス		

車 火

二頭

目 的		次 時 刻		日 7	
<p>對砲據施設及物資集積状況巡視計画 人員及乘車糧秣等砲據ニ對スル掩護施設之點檢者ニシテ 水損害ノ恐無ク期ス</p>		一〇〇〇	II 本部	福地北側高地	90分
		一二三〇	↑	人員酒尾澤樂糧秣 内菅東側高地	50分
		一二三〇	↑	神谷小隊	40分
		一四二〇	↑	大 中 人員酒尾澤樂	80分
		一五二〇	大 中	澤樂糧秣	60分
實 施 要 領		<p>一、第二日巡視部隊 聯隊本部、第二大隊、第三中隊 速射砲、第二小隊 巡視経路 本部→伊野波→内菅→II本部 →第五中隊(神谷小隊)→一〇〇〇 西方高地→第六中隊→酒尾澤 第二中隊→本部</p> <p>二、聯隊(隨行者)本部 國澤大尉、柳主計大尉、杉布 中尉、藤本中尉、大々等</p> <p>三、聯隊本部對大隊長及屬五 中隊長ハ全報狀況ヲ各隊長 隊長及主計ハ現地ニシテ現況、 集積状況又爾後ノ計畫ニ關シ 所要ノ報告ヲ行ハセトス</p> <p>四、各中隊長及小隊長ハ巡視區域 區域内ノ隨行者トシテ、</p> <p>五、指導ハ各々現場ニ於テ各</p>			
備 考		<p>一、十六日晝食ハ第一大隊ニ於テ準備スルモトス 二、十七日晝食ハ拂行トス 三、服裝ハ略装トス</p>			

獨混一五作命第六九號

北地一區隊命令

第一六三號

一、敵ハ機動艦隊ヲ以テハラオ群島方面ニ於テ亦其ノ基地航空部隊ヲ以テ支那基地ヨリ夫々出動準備中ナモ、如ク南西諸島ニ攻撃スルノ計算アリ

當分ノ間毎日又三〇一〇九〇〇ニ到ル間内陸戰備ヲ令セシ

二、聯隊ハ戰斗計畫書ニ基テ對空戰備ヲ強化セシム

三、各隊ハ十月十日ノ戰訓及果次ニ宜ク訓示注意ノ機在リ爾レ些ノ故障ヲナクシムヘシ

ナクシムヘシ

四、對空射撃ハ戰斗計畫書ニ基キ必墜ヲ期スヘシ

將ニ速射砲、聯隊砲ハ射方向ノ限定ニ極力共在置テ秘匿掩蔽スヘシ

五、人員ハ掩護ニ関シテハ對空監視哨及勤務率ニ在テ素隊ニ空襲時

於テ所要掩護設備ヲ行ント共ニ陣地附近ノ假兵舎、偽裝遊

撃ニ敵スヘシ

敵ニ敵スヘシ

日

一、敵ハ機動艦隊ヲ以テハラオ群島方面ニ於テ亦其ノ基地航空部隊ヲ以テ支那基地ヨリ夫々出動準備中ナモ、如ク南西諸島ニ攻撃スルノ計算アリ

當分ノ間毎日又三〇一〇九〇〇ニ到ル間内陸戰備ヲ令セシ

二、聯隊ハ戰斗計畫書ニ基テ對空戰備ヲ強化セシム

三、各隊ハ十月十日ノ戰訓及果次ニ宜ク訓示注意ノ機在リ爾レ些ノ故障ヲナクシムヘシ

四、對空射撃ハ戰斗計畫書ニ基キ必墜ヲ期スヘシ

將ニ速射砲、聯隊砲ハ射方向ノ限定ニ極力共在置テ秘匿掩蔽スヘシ

五、人員ハ掩護ニ関シテハ對空監視哨及勤務率ニ在テ素隊ニ空襲時於テ所要掩護設備ヲ行ント共ニ陣地附近ノ假兵舎、偽裝遊撃ニ敵スヘシ

一、聯隊長對砲臺施設並物資集積状況視察、爲大隊陣地
 二、來隊セラル
 三、大隊長入リテ宿營地ヲ發シ大隊陣地前、一八〇師隊又
 北地區隊命令
 十月十七日一六時
 一、旅團ニ裝束材料ノ材料採作業ノ實施ス
 二、地區隊ノ材料採作業ノ人員ヲ差出サントス
 三、各隊ハ左記人員ヲ十月二十日ハ〇伊豆味國民學校差
 出シ旅團少尉ノ指揮下ニ入ラシムベシ
 服裝、軍裝トス
 記
 第一大隊 兵八
 第二大隊 下士官一 兵七
 聯隊砲中隊 兵一

聯隊長對砲臺施設並物資集積状況視察、爲大隊陣地	來隊セラル	大隊長入リテ宿營地ヲ發シ大隊陣地前、一八〇師隊又	北地區隊命令	十月十七日一六時	旅團ニ裝束材料ノ材料採作業ノ實施ス	地區隊ノ材料採作業ノ人員ヲ差出サントス	各隊ハ左記人員ヲ十月二十日ハ〇伊豆味國民學校差出シ旅團少尉ノ指揮下ニ入ラシムベシ	服裝、軍裝トス	記	第一大隊	兵八
										第二大隊	下士官一 兵七
										聯隊砲中隊	兵一

八、予ハ本朝國民學校ニテ、
 七、各隊長ハ敵ノ奇襲ヲ防シ兵營彈藥積貯其地年節止港等
 六、予ハ本朝國民學校ニテ、
 五、予ハ本朝國民學校ニテ、
 四、予ハ本朝國民學校ニテ、
 三、予ハ本朝國民學校ニテ、
 二、予ハ本朝國民學校ニテ、
 一、予ハ本朝國民學校ニテ、

北地區隊長 美田大佐

速射砲中隊

兵一

工兵中隊

兵二

四材料作業隊服務期間、概テ三十日間トシ宿營給與、南地區隊擔任シ作業隊員、各二人ニ付一ヲ携行スベシ

北地區隊長 美田大佐

四、一七五〇左記情報ヲ受テ

左記

一、ウルシ方面機動部隊十四日ニウギニア指揮官ト頼リニ信號シアリテ十五日其測定位置置バニオ北方十五哩

ニ、パオ方面機動部隊、比島方面ニ出撃セル算、大ナリ

三、十四日西カオリン方面警戒嚴重ニシテ且ニウギニア方面ニ集結

中ノ輸送船團ハ其ノ兵カ少クモ一師團ヲ下ラス

四、在米空軍ハ十月十六日以降比島方面作戰部隊指揮官ト通信

シアリ

以上ヲ綜合スルニ敵ハ十五日頃ヨリ策動ヲ開始セルモノ、如シ

五、右情報ニ依リ現在殘リノ糧秣ヲ應急處置トシテ各地ニ分散セシムル如ク手配ス

下達命令六、井上隊命令

十月十七日

陸軍中尉 山下 寛治

右駐屯地會報出席、爲明十八日即日歸隊ヲ以テ渡久地

聯隊本部ニ出張ヲ命ス

日直下士官 陸軍主計係長 中田 芳雄

人員 將校以下 二八名

馬 匹 三頭

軍 犬 二頭

(井上)

勤務員

十月十六日
謝名

一、副官駐屯地會報出席、爲本部ニ出張ニテ一日歸隊ス

受領
第五百號
第一二三號

下達命令
第七九號

三、温原軍曹以下七名兵舎構築作業ヲナス

三、関中村ニヨリ今歸仁村ノ警備隊防圍並各種指導階級者ヲ集メ地方住民指導(亦戰術)要領ヲ指導ヲナス

四、獨立隊第十五聯隊目命令 十月十日

一、陸軍大尉 田中成滋
陸軍中尉 杉浦隆孝
同 松村孝一

右者明十九日伊江島地區隊ノ實施スル對戰車肉攻査閱見學ノ爲メ泊ノ豫定ヲ以テ伊江島ニ出張ヲ命ス

井上隊命令 十月十八日
陸軍中尉 間光謙三

一、明十九日A地區巡察將校服務ヲハシ
陸軍上軍兵 佐々大忠男
右者軍火集合教育參加ヲ爲メ明十九日ヨリ二十三日ノ豫定ヲ以テ

渡久地ニ出張ヲ命ス

日直下士官 陸軍軍曹 温原茂信

人員 將校以下 二八名

馬 匹 二頭

軍 火 二頭

十月十九日
精進名
陣地構築

一、岩瀬軍曹以下七名陣地内兵舎構築作業ヲ實施ス

二、関中村ノハヨリ二〇〇〇名迄本部陣地附近ノ兵舎構築指導ヲナス

三、獨逸ニ渡ル命令第六八號ニ基テ居住並立入許可證左記人員ニ付ス

居住許可證 二名
立入許可證 六五名

下達命令
第八號

十月十九日

一 獨混五隊命令第七號第三項(基ヲ要員在、如ク是等
ノシ(携行器材亦命令第四項ニ依ル))

第四中隊 兵二

第五中隊 下士官一 兵二

第六中隊 兵二

第三機關銃中隊 兵一

日直下士官 陸軍軍曹 岩洲 亮一

人員 將校以下二八名

馬 匹 三頭

軍 犬 二頭

十月二十日
附名

岩洲軍曹以下七名兵會構築作業ヲ實施ス

現勤
員務

二 鍛冶兵ニ依リ、作製「カスガキ」各中隊隊員ニ配分ス

第四中隊六〇、第五中隊六〇、第六中隊六〇、

第二機關銃中隊三〇、

三 本部ヨリ受領、兵會用板材ヲ内當障地ニ於テ配分ス

下達命令
井上隊命令
十月二十日

第八號

一 獨混五隊命令第六八號第二項(之ニ依リ擔任區域内ノ勤明
左ノ通リ服務スヘシ)

第四中隊 自十月二十日 至十一月十日

第五中隊 自十月二十四日 至十一月十日

第六中隊 自十月三十日 至十一月十日

陸軍少尉 今本喜作

明主日C地區巡察將校服務スヘシ

日直下士官 陸軍軍曹 仲條 嘉春

人員 將校以下二八名

井上

現勤
員務

十月三日雲野
謝名

受領
獨混五百命
第一六號

馬匹
軍犬

三頭
二頭

一 岩刺軍曹以下七名兵舎構築作業ヲ實施ス
二 獨混混成第十五聯隊日命令 十月三日
一本職明言伊江島地區隊ノ實施スル水際戰鬥指導ヲ爲
即日歸隊ノ疎走ヲ以テ伊江島ニ出張ス

六

陸軍中尉

中野清市

同 少尉

瀧川氏夫

同 同

田村忠藏

同 同

大野誠一

陸軍衛生部
見習士官

寺邑徳則

陸軍技術在尉

坂口順市

陸軍准尉 石川 銀次郎

勤務員

右本職ニ隨行ノ命々
日直下士官 陸軍軍曹 岩刺亮一
人員 將校以下 二八名
馬匹 三頭
軍犬 二頭

勤務員

一 岩刺軍曹以下九名陣地兵舎構築作業ヲス
二 関中村三ノ口一八ノ間本初陣地兵舎構築ノ指導ヲス
日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

勤務員

人員 將校以下 二八名
馬匹 三頭
軍犬 二頭

新字書
名

一、若刺軍曹以下三名兵舎構築作業ヲ實施ス

下達命令
六、井上隊命令

六月二十日

第八三號

一、

陸軍准尉 吉川 忠信

陸軍曹長 木村 武夫

同 田原 大雄

同 関原 武男

陸軍軍曹 藤井 光男

右者法務顧問打合會出席、爲明三曹名護町被團司令

部ニ出張、命ス

仍テ明日二〇〇迄ニ該部ニ到ルヘシ

日直下士官 陸軍軍曹 宮崎 啓二

人員 將校以下 二八名

井上

現勤員務

馬 匹
軍 犬

三頭
二頭

本署

一、大隊長以下五名幹部教育出席、爲七月出展の三五

高地訓練

本教育ヲ不参加者左ノ如シ

陸軍中尉 西村 又次郎 (若尾操)

同 大門 正三 (疾病療養)

同 間片 謙三 (病)

二、本日之教育ニ参加了ス

那隊長以下参加將全員今歸仁ニ於テ夕食ヲシ宿營ス

三、吉川准尉以下五名昨二十日命令ニヨリ名護ニ出張ス

歸隊ス

